

天声人語

昨年亡くなつたキューバのフidel・カストロ前国家評議会議長は、世界で最も多く暗殺の標的になつたことで知られる。暗殺計画は600を超えたといわれ、猛毒が塗られた葉巻が用意されたこともある▼細菌入りの飲み物やボールペンに見せかけた注射器も検討されたという。歴史を振り返ると、政敵を排除し、権力を得るための毒殺の試みは大昔からあつた。14世紀にイタリアの壁画に描かれた暴君は、毒杯を持った悪魔の姿だつたという（コラール著『毒殺の世界史』）▼犯行に使われたのは毒のスプレーか、あるいは毒針か。北朝鮮の故金正日総書記の長男、金正男氏がマレーシアの空港で襲われ、殺害された▼正男氏は2012年にも、北朝鮮の工作員とみられる者に暗殺されそうになつたと。今回も、異母弟にあたる金正恩朝鮮労働党委員長の指示によるとの見方が強まつてゐる。殺害に関与した疑いで女2人が逮捕された。真相はどこまで解明されるのだろうか▼正男氏は外国人が多く、メディアの質問に答えることもある。取材を続けてきた朝日新聞記者は正男氏の博識ぶりを感じていたといふ。スマホで絵文字を送つてくるくだけた面もあつた。空港で理不尽な死を強いられた無念さを思う▼北朝鮮は、新型弾道ミサイルを発射したばかりだ。今回の暗殺を実行したとすれば、世界に見せつけて恐怖を植え付けようとの狙いがあるのか。毒気に入られ、冷静さを失うことだけは避けねばならない。

2017.2.17